ASBJ Accounting Standards Board of Japan
FASF Financial Accounting Standards Foundation
FASB FINANCIAL ACCOUNTING STANDARDS BOARD
PRESS RELEASE

2020 年 10 月 28 日

企業会計基準委員会と米国財務会計基準審議会の代表者による定期会合の開催

企業会計基準委員会
米国財務会計基準審議会

企業会計基準委員会（ASBJ）と米国財務会計基準審議会（FASB）の代表者は、2020年10月26日と27日に定期会合を実施しました。この会合は、高品質でグローバルな会計基準の開発へ向けて連携を深めるために、ASBJとFASBが年に2回定期的に行っているもので、今回で28回目となりました。前回と同様、新型コロナウイルス感染症の影響により、ビデオ会議の形式で実施されました。

今回の会合では、ASBJ及びFASBの代表者は、新型コロナウイルス感染症への対応を含む、お互いの活動の最新の状況を確認するとともに、両基準設定主体が共通の関心を有している項目であるのれんの会計処理及び持分法の会計処理の他、「財務報告に関する概念フレームワーク」における構成要素に関する章についてのFASBの公開草案についても議論を行いました。

ASBJとFASBは、引き続き意見交換を続けていく予定であり、次回の会合は2021年の前半に開催する予定です。

小賀坂敦ASBJ委員長は次のように述べています。
「今回の定期協議は、リチャード・ジョーンズ議長になってから初めての会合であって、お互いの理解を深められたことを嬉しく思う。2日間にわたり、のれんの会計処理や「財務報告に関する概念フレームワーク」における構成要素に関する章についてのFASBの公開草案を含む、幅広い論点について有意義な議論を行うことができた。今回はビデオ会議形式で実施された2度目の会合であったが、不確実な状況に対応して、グローバルな会計基準の品質の改善に資することが重要であると考えている。」

リチャード・ジョーンズFASB議長は次のように述べています。
「ASBJ と FASB の定期会合は、それぞれの法域におけるより良い、より整合性のある会計基準に貢献しており、私は FASB における新しい立場でこれらの議論に参加できることを光栄に思っている。のれんの会計処理、持分法の会計処理及び概念フレームワークに関する意見交換により、これらの問題に関する新しい洞察が得られたほか、リース、信用損失及び収益認識に関する基準の適用後レビューに関する貴重なインプットを得ることができた。利害関係者がパンデミック関連の財務報告の課題に首尾よく対処することを両審議会が支援しようとするとき、我々の対話は特に重要である。」

企業会計基準委員会（ASBJ）について

ASBJ は、2001 年 7 月に民間部門の機関として設立された。ASBJ が開発した会計基準は、金融庁により一般に公正妥当と認められた企業会計の基準として認められることとなる。ASBJ は、企業が活動している環境を適切に反映した会計基準及び適用指針を開発している。ASBJ は、海外の会計基準設定主体とコミュニケーションを取り、グローバルな会計基準の開発に貢献している。ASBJ に関する詳細な情報は、ホームページ（https://www.asb.or.jp/jp/）をご参照いただきたい。

米国財務会計基準審議会（FASB）について

FASB は、1973 年に設立された、一般に認められた会計原則（GAAP）に従う公開企業、非公開企業及び非営利組織のために財務会計及び財務報告の基準を設定する独立の民間の機関であり、コネチカット州ノーウォークに拠点を置いている。FASB は、米国証券取引委員会（SEC）により、公開企業のための指定された会計基準設定主体として認識されている。FASB の基準は、各州の公認会計士審査会及び米国公認会計士協会（AICPA）を含む、その他の多くの組織により権威のあるものとして認識されている。FASB は、投資家その他の財務報告書の利用者に有用な情報を提供する財務報告を促進することを意図した、透明性があり、誰でも参加できるプロセスを通じて、財務会計の基準を開発し、公表している。米国財務会計財団（FAF）は、FASB の支援及び監督を行う。詳細な情報は、ホームページ（www.fasb.org）をご参照いただきたい。